

オーディオ実験室収載

micro iDSD の試聴(2) —micro iDSD デモ機の試聴—

1. はじめに

前報(1)で紹介した iFI Audio の micro iDSD による 11.2MHz,DSD の再生はオーディオ誌に紹介されたこと也有って反響が大きいようです。

そこで、iFI Audio の製品を取り扱っている大阪日本橋のアサヒステレオセンターに iFI Audio からデモ機を取り寄せてもらい、オーディオ仲間の A 氏とともに試聴の機会を持つことにしました。

2. micro iDSD の試聴方法

試聴室はアサヒステレオセンター (ASC) の試聴室をお借りし、下記の機器もお借りしました。

DAC : micro-iDSD (iFI Audio デモ機)

DAC : MYTEK DIGITAL 192-DSD (ASC デモ機)

DAC : 城下工業 SWD-DA10 (持参機)

スピーカー : ライドーD2 (ASC デモ機)

プリアンプ : スペクトラル DMC30-SS (ASC デモ機)

パワーアンプ : スペクトラル DMA-400 (ASC デモ機)

DAC : MYTEK DIGITAL 192-DSD (ASC デモ機)

クロックジェネレーター : GPS-777 (持参機)

HQPlayer インストール済の PC、GPS-777 および城下工業の SWD-DA10、ケーブル類を A 氏と分担して持参し、次のようなラインアップで試聴しました。また、PC には事前に micro-iDSD のドライバーソフトをダウンロードしておき、インストールの際に micro-iDSD を接続して動作させます。インストール前には XMOS ドライバーをアンインストールするようにとの指示が記載されていましたが、PC にインストール済の既存のドライバーがそれに該当するかどうか不明なところもありましたので、現状のままインストールしてみました。

【試聴対象】

PC (HQPlayer) → micro-iDSD → プリアンプ → パワーアンプ → スピーカー

【比較対象 1】

PC (HQPlayer) → SWD-DA10 (GPS-777 よりクロック入力) → プリアンプ → パワーアンプ → スピーカー

【比較対象 2】

PC (HQPlayer) → MYTEK DIGITAL 192-DSD (GPS-777 よりクロック入力) → プリアンプ→パワーアンプ→スピーカー

【音源】

音源はネットオーディオ No.15 付録の 11.2MHz,DSD 音源の他、早稲田大学の 1 ビットコンソーシアムを主導されている山崎先生が録音され、1 ビットコンソーシアムのウェブ上で公開されているものをオーディオ仲間が DSDIFF ファイル形式に変換したものを入手しました。さらに、自前の 5.6MHz,DSD 音源と 2L のサイトからダウンロードした 352.8KHz/24bit,PCM 音源を準備しました。

11.2MHz,DSD 音源と 352.8KHz/24bit,PCM 音源は micro-iDSD で再生可能かどうかの確認を行うためであり、5.6MHz,DSD は上記 DAC の 3 者間の音質比較用です。試聴システムの写真を下記に示しますが、写真左下の micro-iDSD はコンパクトながら内蔵バッテリーも含まれていてずっしりと重いものです。



3. micro iDSD の試聴結果

まず、最初に Foobar2000 をインストール済のアサヒステレオセンターの PC で 11.2MHz,DSD 音源の動作を確認しました。

次に持参した PC にダウンロード済みのドライバーソフトを micro-iDSD と USB ケーブルを接続した状態で画面指示にしたがってインストールし、Windows のサウンドでの micro-iDSD の認識を確認した上で HQPlayer のドライバー設定欄で micro-iDSD のドライバーの選択を行いました。HQlayer 設定の DSM (DSD) 初期設定のビットレートの最大値を 11.2MHz に設定し、また、PCM 初期設定のサンプリング周波数最大値は最大 352.8KHz に設定した後、①11.2MHz,DSD 音源を 11.2MHz,DSD として再生、②352.8KHz/24bit,PCM 音源を 352.8KHzPCM で再生可能なことを確認しました。さらに、③11.2MHz,DSD 音源を 352.8KHzPCM で再生、④352.8KHz/24bit,PCM 音源を 11.2MHz,DSD で再生するというトランスコーディング再生も可能なことを確認できました。

次に、5.6MHz,DSD 音源を SWD-DA10、ついで MYTEK DIGITAL 192-DSD により再生し、再び micro-iDSD に戻って三者間の音質の比較を行い、最後に A 氏の持参された CD を PC のドライブから再生し、CD-AD⇒DSD のリアルタイムトランスコーディング再生も実施しました。

肝心の音質ですが、ネットオーディオ No.15 付録の 11.2MHz,DSD 音源はテクノポップス系でクラシック曲のものにとっては良しあしは判断不能なものでしたが、早稲田大学の 1 ビットコンソーシアムの Web 上で公開されたヴァイオリンソロは ASC のハイエンドスピーカーにも助けられて驚くほどリアルな演奏が再現され、既にネット上で言及されているとおりの印象でした。

http://www.acoust.rise.waseda.ac.jp/1bitcons/data10/2006_nagano_ohba.wsd
<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/07/0d884429c4175e182ffa5fa9f2b2e878.pdf>

http://av.watch.impress.co.jp/docs/series/dal/20140630_655719.html

また、2L のサイトからダウンロードした 352.8KHz/24bit,PCM 音源はバロックオペラなどの曲でしたが、伸びやかな質感と豊かな音場感を感じられました。

スピーカーからの音だけでなく、ゼンハイザーのヘッドフォンの音も確認しましたが、同様の印象でした。

5.6MHz,DSD 音源についての micro-iDSD に対する SWD-DA10 と MYTEK DIGITAL 192-DSD の比較では、二、三の曲を駆け足で鳴らしてみただけですが、micro-iDSD はコンパクトな設計ながら対照機に遜色のない音質でした。

なお、MYTEK DIGITAL 192-DSD で再生した後、micro-iDSD に戻ると、micro-iDSD のドライバーが動作しない現象がありましたが、PC を立ち上げなおすと動作しました。

4.まとめ

micro-iDSDにおいてfoobar2000による11.2MHz,DSD音源の再生、およびHQPlayerによる11.2MHz,DSD音源と352.8KHzPCM音源の再生、さらにDSD/PCM相互のリアルタイムトランスコーディング再生も可能なことが確認でき、それらの音質はいずれも納得いくものでした。11.2MHz,DSD音源は現在ほとんど入手不可能ですが、PCM音源からのリアルタイムトランスコーディング再生は、2LなどのサイトからハイレゾPCM音源が入手可能ですから、HQPlayerを既に使用している場合にはmicro-iDSDの適用範囲が広がるものと言えます。

以上

【註】同席されたA氏の印象を下記に記します。

- 1)foobar2000(ASCのPC)→microiDSD→アンプ→スピーカー
11.2MHz音源はすばらしい
- 2)HQPlayer(持参PC)→microiDSD→同上
上記音源はこちらの方がよい、特にバイオリン独奏は目の前にバイオリン実物が囁いているような印象
また当方持参のCDも試聴出来たが、まるで別物
マーティン・テラーのジャズや倍賞千恵子他ボーカルは空気感がリアルで
リムスキー・コルサコフのシンフォニーは楽器の定位感で迫ってくる
CDのリアルタイムDSD再生が楽しみ
- 3)HQPlayer(持参PC)→城下工業とMYTEK DIGITALのDAC→同上
ASCのアンプ・スピーカーは研ぎ澄まされたクリアな音と歯切れの良い低音

なお、本試聴の直前に、別のショップで聴いた、ユニット直前までデジタル伝送するという方式のLINNの「AKURATE EXAKT SYSTEM」の印象も悪くはなかったのですが、本試聴での11.2MHzDSD生録音源の再生によって完全に色あせてしまいました。

http://av.watch.impress.co.jp/docs/news/20140424_646071.html